

1. エコプラザ(啓発施設)のあり方にかかる勉強会

- 資源再生センターの廃止(空き缶処理の停止)に伴い、エコプラザの機能が変化
- エコプラザの現状や社会情勢の変化などを踏まえながら、施設の継続・廃止のあらゆる選択肢を含めて、今後のあり方について率直な意見を聴取(令和5年2月17日、4月25日の2回開催)

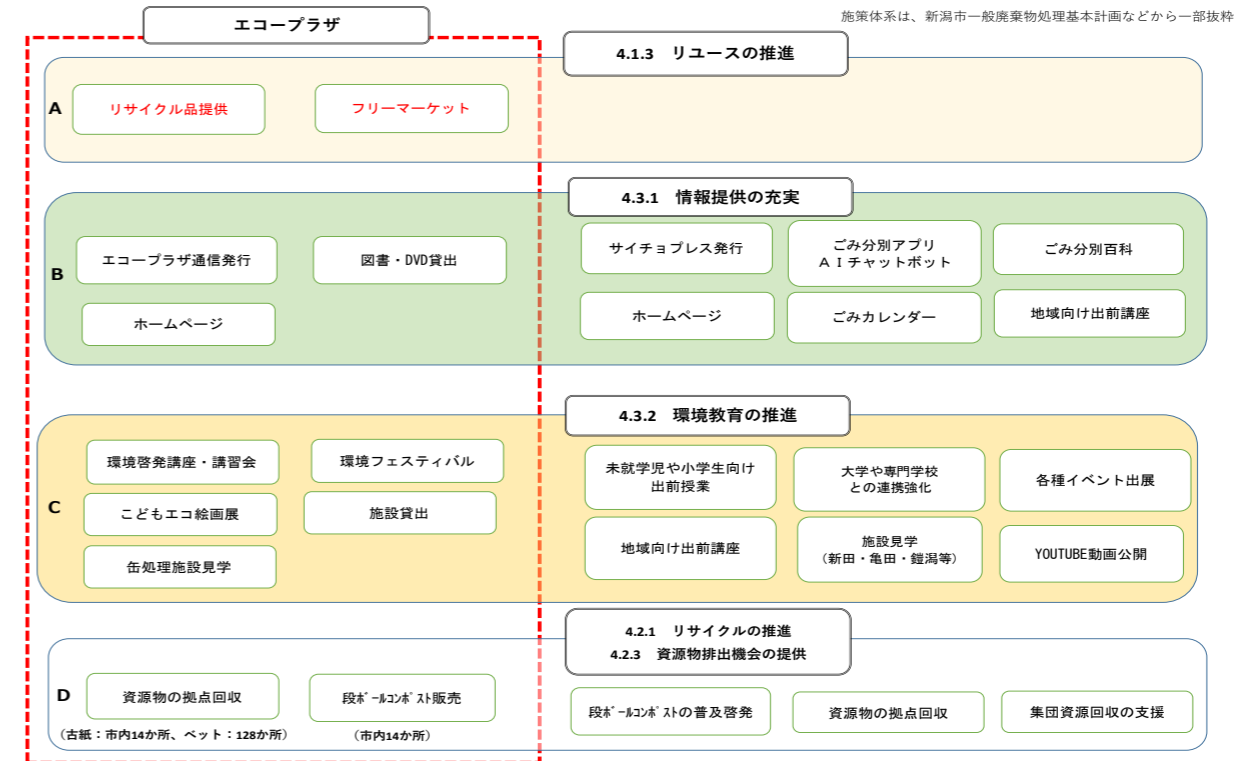
2. 施設の現状

- 空き缶処理設備の老朽化が進行しているため、令和6年度以降は民間委託にて処理
空き缶処理停止に伴い、エコプラザの啓発機能が低下(施設見学の停止)
- エコプラザについても、平成8年度の開設から27年が経過し、老朽化が進行
雨漏りや空調設備の不調が生じており、継続利用には大規模な修繕が必要
- 敷地約20,000㎡(隣接する東処理センター跡地含む)に対し、エコプラザ面積は約500㎡
わずか3%弱であるエコプラザの継続利用は公有地の有効活用の面から課題あり
- 現在のエコプラザ運営経費は年間約2,700万円(光熱水費・大きな修繕費は含まず)
うち、展示提供事業経費は年間約1,300万円(約1,500点/年、約8,500円/点)
- エコプラザの代替地として、機能移転できる公共施設なし



3. エコプラザの役割

- エコプラザでは、廃棄物の減量、再資源化、再生利用に係る情報の提供、講座・講演会の開催、不用品交換会等の開催、廃棄物の再生・展示・提供などの事業を実施



■ 一般廃棄物処理基本計画に照らして、エコプラザ実施事業を分類・比較したところ、施設廃止した場合、**「リユースの推進」に係る事業に乏しく、今後の方向性検討が必要**

新潟市一般廃棄物処理基本計画(抜粋)

4.1.3 リユースの推進

「リユース」は、3Rのうち「リデュース」に次いで優先度が高いことから、さらなる取り組みを推進します。「リユース」は、民間事業者や市民団体が独自の取り組みを進めていることから、それらの動きと連携し、社会全体でのリユースの機運を高めていきます。

具体的な推進策

● リユース機会の提供

フリーマーケットなど、リユースにつながる取り組みを支援するほか、不用になったものが必要とする人へ届くような仕組みを検討します。
また、事業者等との連携により、不用になったものを捨てるのではなく、繰り返し使うリユースに向けて行動しやすい環境を整備します。

主な取り組み

- ・ フリーマーケットの開催
- ・ リサイクル品の提供